

第4回 千曲市復興計画策定委員会 議事録（要旨）

日時 令和3年2月25日
午後2時00分～

会場 ことぶきアリーナ千曲 会議室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

（赤沼委員長）

昨年の6月に第一回の策定委員会を開催した。その後それぞれの部会で議論したものを事務局でまとめ、今回で四回目の会議となった。

事前に資料の送付があり、すでに目を通して頂いている。委員の皆さんにはもう一度災害が起きた状況を確認する中で、この復興計画を今後災害のないまちにするためのものとして、本日は最終的にまとめて頂くようお願いしたい。

3. 市長あいさつ

（小川市長）

前回の会議は公務の都合で出席できなかったことをお詫びしたい。

本日は四回目の策定委員会ということで、私自身は初めて出席させて頂くが、委員の皆様にはこの一年間、復興計画の策定に向けてご尽力頂いている。心から感謝申し上げます。

私は栗佐に住んでいるということもあり、選挙の前後を通じ被災された方、そして市民の皆様には寄り添うという気持ちで取り組んできた。これからもそのように取り組んで参りたい。

1月16日から復興計画の住民説明会が各地で行われたが、その中でも改めて市民の皆様の不安な気持ちや切実な思いをお聞きした。そういったご意見やパブリックコメントを含めて復興計画を策定する。

また、来年度からは新しい総合計画の策定に取り掛かる。こうしたことを通じて、

千曲市を本当の意味で安心安全、暮らしやすいまちにしていきたいと考えている。

当初よりは策定のスケジュールが遅れているが、もう少しだけ皆様にはお力添え頂き、一緒になって復興計画を作っていきたい。

4. 会議事項

(委員会設置要綱「第7条」の規定により委員長が進行)

(1) 千曲市復興計画(案)に対するパブリックコメントの概要と市の考え方 (事務局)

前回の策定委員会の後、頂いたご意見をもとに計画案を修正した。

この計画案をもとに、計画の概要を説明する動画を作成し、12月28日から市の公式YouTubeチャンネルとケーブルテレビで配信を開始した。ケーブルテレビでは約一か月放映した。またYouTubeチャンネルでは現在も閲覧が可能となっており、視聴回数は昨日時点で約550件だった。

1月5日から2月3日まで二回目のパブリックコメントを実施するとともに、1月16日から住民説明会を開催した。

説明会は当初8回の予定だったが、申し込みが少数の会場があり、そちらについては申込者と事前に相談して調整させて頂いた結果、5回の開催となった。

パブリックコメントや説明会でのご意見の多くは、治水対策や避難体制、情報伝達に関するものだったが、計画案でお示しした具体的な施策の方向性に対するものではなく、施策の実施に関する要望、ご意見がほとんどだった。そのため計画本編に関する修正は少数となった。ただし、説明会等で頂いた意見は、市民の不安や今後の施策に対する期待が込められたものであるため、これらご意見と市の回答についても復興計画の資料編にすべて掲載したいと考えている。

(赤沼委員長)

パブリックコメント以降について説明頂いたが、質疑等あればお願いしたい。

(大裕委員)

パブリックコメントの関係で、河川図と用水路図の添付があった。これを見て初めて千曲市の状況が分かったが、この図については最初の委員会時点で見せて頂きたかった。

なぜなら、この図を見ると市内には非常に多くの水門がある。その管理について市はどの程度把握しているのか、有事の際にどうやってコントロールするのか分からない。

住民説明会でも尾米川への排水についての質問があり、紛糾したようだったが、これだけの数の水門を見るとやはり水の流れに疑心暗鬼が生じてしまう。市では水門の状況を確認したとのことであったがエビデンスが提示されていない。

水門が多いと、いざ自宅の周辺が浸水しそうとなれば、勝手に水門の開閉をされてしまうことも想定される。千曲川でも下流を守るために上流を氾濫させるという考え方もあるため杭瀬下の排水に対する考え方などに踏み込んだ議論がしたかった。

水門の数には驚いたが、市としてはこれらの危機管理をどのように考えているのか。個人的な意見になるが、委託している水門管理者などに対しては年に一度講習をすとか、有事の際の情報伝達方法などに関する教育をした方が良いのではないかと思う。

(事務局)

ご指摘のとおり、水門の数は多い。河川の水門だけでなく、田んぼに水を引くための用水の水門もある。水門のサイズも大きいものから小さいものまで様々。

また、これは市内の都合となるが、管理する部署がいくつかに分かれている。平時はそれで良いが、有事の際には連携に問題が生じた部分もあった。図面が二つに分かれているが、現在のところ統一した図面もない状況で、非常に反省すべき点であると考えている。先日も市内会議で課題点として事務局から提起し、今後市として横断的に進めるよう共有を図ったところ。

水門の管理については細かなものになると区などをお願いしているが、管理の仕方などのマニュアルも共有したいと考えている。

(大裕委員)

ぜひお願いしたい。おそらく水門管理者もマニュアルがないと、有事の際にどうすれば良いか迷うと思う。例えば目の前で泣きつかれたり、強く迫られたりすれば開閉せざるを得ない状況が出てくるのではないか。そうなると説明会での質問のように、水門を開けていたのか閉めていたのかといった議論がまた出てしまう。

水門管理者は「管理」する立場であるので、しっかりと教育をして欲しい。

(事務局)

承知しました。

(赤沼委員長)

他になければ私からお願いしたい。

まず、本編の参照ページだが、編集によってずれが出ているところがある。策定委員会として出す文書であるので、こういった細かい部分も再度精査をお願いしたい。

もう一点、パブリックコメントの中で「防災ラジオについて研究して参ります」と回答しているが、本編には触れられていない。何らかの記述が必要ではないかと感じるので再考を。

最後に復興計画の計画期間について。市長が代わり第三次総合計画となったことから計画期間の終期が記載されなくなったが、復興計画としての目標年度として一定の目途は必要ではないか。事務局の考えを聞きたい。

(事務局)

一点目は確認して修正させて頂く。

防災ラジオの関係は情報伝達の部分に記載できないか担当課に確認し、修正可能であれば修正したい。

計画期間に関する事務局の意図は、現時点で終了時期が確定しているものを除いて、復興の事業をどこかで打ち切るのではなく継続していきたいということ。

今後第三次総合計画を策定する中で計画期間が決定されてくるが、復興計画は総合計画に取り込まれることから、その際に目標年次もはっきり定めたいと考えている。

復興計画の具体的な施策は一覧表にまとめて本編の最後に記載した。これも総合計画にあわせて取り込んでいきたいと考えているが、その時点でこの一覧表の計画期間を修正し目標を明確にしていく。

(赤沼委員長)

計画は目標を定め、その年次に対してどの程度の達成率かを評価し、新たな計画を立てるもの。そういった部分で、見て分かる形で対応頂きたい。

(事務局)

承知しました。

(2) 千曲市復興計画（案）について

(事務局よりパブリックコメント後の修正点について説明)

(赤沼委員長)

ただいまの説明について質疑等あればお願いしたい。

(大碓委員)

河川図と水門図は復興計画に掲載するか。

(事務局)

掲載したいと考えている。また、パブリックコメントの回答としてホームページには既に掲載している。

(大裕委員)

市議会からの意見書について、これは意見を出して終わりなのか。議会としては今後何か考えているのか。

(事務局)

市議会は市民の皆様の代表であるため、今後も市をしっかりとチェックしていくという意思だと思っている。

(大裕委員)

住民説明会は思っていたよりも参加者が少なかったが、どのような雰囲気だったのか。

(事務局)

説明動画をご覧頂いたという話を聞いた。また、出席者は計画書もしっかりと確認されている印象だった。

その上で計画の方向性よりも、身近な事業についての今後の進め方や浸水の原因、信濃川水系緊急治水対策プロジェクトの日程といった具体的な質問が多かった。それらのご質問に対しては担当の部長からしっかりと回答させて頂いた。

(大裕委員)

一部からはアピール不足との声も聞こえてきたが、実際のところはどうだったのか。コロナ禍も関係していると思うが予想よりも参加者が少なかった。災害に関する意識が薄れているのではと心配している。

(事務局)

確かに想定よりも少なかった。やはりコロナウイルスの状況が良くなかった。その代わりとして動画の配信に関してはアピールをした。

(大裕委員)

動画は私も見たが良かったと思う。やはり自分の好きな時間に見れることは良いやり方。今後もっと活用した方が良いと感じた。

(赤沼委員長)

他に何か、全体を通してご意見があればお願いしたい。

(高野委員)

住民説明会の参加者が少なかったことは市民として申し訳ない気持ち。喉元過ぎれば熱さを忘れるではないが、コロナ禍もあり、災害に対する危機感がとても薄くなってしまっていることが心配。

ただ、ニュースを見れば各地で自然災害が起きている。災害を防ぎたいという

気持ちはもちろん一番強いが、それでも災害はどうしても起きてしまう。起きてしまったときにどうやって対処するのかということで、転ばぬ先の杖が必要と感じる。

新聞で見たが、区長さん達がテントを使っただけの避難所設営をしていた。復興計画の中でも避難訓練に関する新しいアイデアが出されてもいた。前例踏襲ではなく、より良い対策を検討し、住民を巻き込みながら計画を進めて欲しい。

「やってあげる人」と「やってもらう人」という関係ではなく、それぞれが自分のため、他人のために行動できるように、市でも音頭を取って頂きたい。

(事務局)

各地区での防災計画策定などは、すでに取り組んでいる区もある。私自身、地元職員のパートナーシップ制度により、先日区の防災に関する会議に参加した。

それぞれの地区によって心配される災害は異なるが、今回の台風を教訓にその地区にあった対策を取らなければいけないといった意識が住民の皆様の中にも少しずつ出てきているように感じている。

市としても、そういった動きに対して必要な支援をしっかりとしていきたい。

(赤沼委員長)

他にご意見がなければ、会議事項については終了とさせて頂き、事務局から今後この復興計画をどういった形で第三次総合計画へ盛り込んでいくのか、そのスケジュールをご説明頂きたい。

(事務局)

本日の委員会で計画案をご承認頂ければ、3月議会の総務文教常任委員会で議会に対して報告する。その後、市民の皆様に向けて公表していく予定。

公表に際しては、市のホームページに公開するだけでなく、インターネットの利用が難しい方でも見るように市役所や主要な公民館に冊子を置く。

第三次総合計画との関係については、策定に際して有識者や市民に意見を頂くための審議会を立ち上げるが、その審議会の委員として復興計画の策定委員からも入って頂きたいと考えている。それによって復興計画が正しく総合計画の中に取り込まれ、今後の進捗管理についてもチェック頂けると考えている。

(赤沼委員長)

今後のスケジュールについて説明頂く中で、復興計画案の承認を頂きたいという話があった。

これまでご審議頂いた中で、一部訂正部分は残っているが、この復興計画について当委員会として、原案のとおり決定してよろしいか。

(全員了承)

(赤沼委員長)

異議なしということで、千曲市復興計画について本委員会では原案のとおり決定する。ありがとうございました。

5. その他

(事務局より事務連絡)

(事務局)

最後に小川市長より御礼のご挨拶を申し上げます。

(小川市長)

皆様、本日はありがとうございました。

本来は4月からスタートして秋頃には計画策定という予定だったが、コロナ禍など様々な事情で度重なる延期となった。皆様にお願ひしていた期間を大幅に過ぎてしまった不手際をお詫びしたい。

また委員、オブザーバーの皆様におかれましては長期間の審議にご協力頂きありがとうございました。

本日の委員会でひとまず千曲市復興計画案をご承認頂いたが、計画は作って終わりではなく、これから、計画ができてからがスタートになると考えている。計画にもとづいた具体的な施策を着実に実行していくことが大切。

そして私も日頃から職員に対して、市民が何を感じるのか、どう感じるのか想像力を持つこと、また「すべては市民のため」という言葉で仕事をするよう伝えている。

こうした思いで職員一同「安全・安心なまちづくり」に向けて全力で取り組んで参りますので、皆様におかれましては、今後ともご協力のほどよろしくお願ひ致します。

皆様、ありがとうございました。

6. 閉 会